地元に貢献する国有林

松本・　梓　森林事務所　○小沢　啓一
大野川森林事務所　　寺沢　正樹

はじめに

近年の森林，林業に対する国民の要請は，地球規模での環境問題を背景とし多様化，高度化してきており，水資源，国土保全など森林の有する多面的な機能の高度発揮が求められていてる。

当森林事務所管内の南安曇郡梓川村でも，近年都市化が進み，またそれに伴って緑に対する関心も一段と高まってきている。

昔から梓川村には至るところに「ミズメ」が自生しており，村の木として広く村民に親しまれ，今でもお年寄りなどは「ミズメ」のことを「アズサ」と呼んでいる。

また，このような背景から，川の名前が梓川となり，それが村の名前になったと伝えられている。

この「ミズメ」は材質が強靭で美しいことから，建具や高級家具などに用いられ，古代中世の頃は，弾力性に富む木の性質を利用して梓弓を作り，装飾品や狩猟の道具として用いられた歴史がある。

最近建てられた村の郷土館にも，当国有林内から採取した「ミズメ」で梓弓をつくり陳列している。

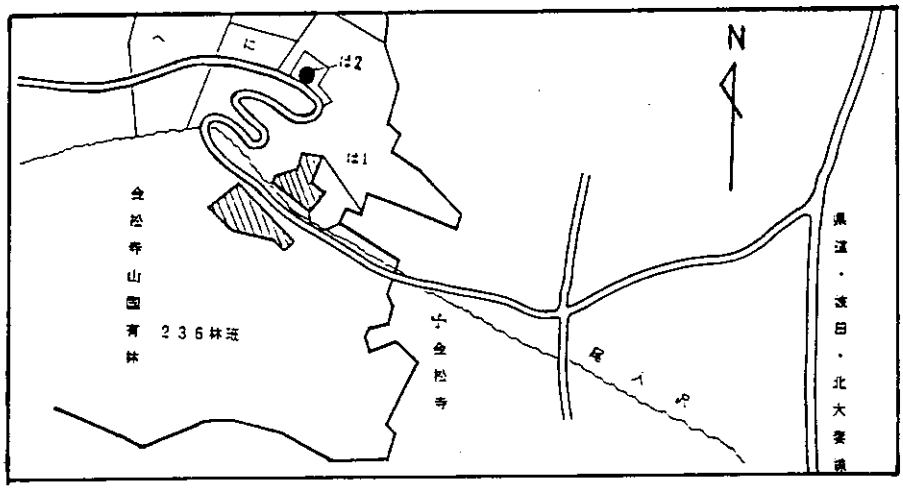
そして今，国有林野事業は，機能類型に基づいた森林施業がスタートしようとしている。

このような時に，機能類型に応じた森林機能を発揮する上で広葉樹の育成は，重要性を増すものと考えている。

そこで，広葉樹林造成の一事例として，昭和５３年度に梓川中学校の生徒が校章に用いられている「ミズメ」に関心をもっていたことから，緑化活動の一環として，国有林を提供し，未立木地に「ミズメ」の山引き苗を献植した経過があるので，その後の観察結果を報告する。

１、当該地の概要

当該地は，梓川中学校から約５km離れた当森林事務所部内の金松寺山国有林２３６は－２林小班で，天然林アカマツ５１年生の林の一角である。



図－１ミズメ植栽箇所位置図

面積は，0.10ｈａで，立地条件も非常に恵まれた場所である。

山引き苗は，樹幹解析から判断して３年～４年生のものを，300 本植栽してあり，現存本数は156 本で約半分になっている。

保育については，当時指導した作業員から聞いたところ，下刈を3 回程度行い，除伐については，当時の主任，学校関係者が主体となり2 回程度実行した経過がある。

次に「ミズメ」の生育状況ですが　（表－１　材積対照表）

材積について見ると，中部山岳地域施業計画での収穫予想表で対比すると，当林分17年生に見合う20年生対比で，ヒノキ60㎥，カラマツ172 ㎥に対し「ミズメ」は約2 倍の142 ㎥と生長の良さを示している。

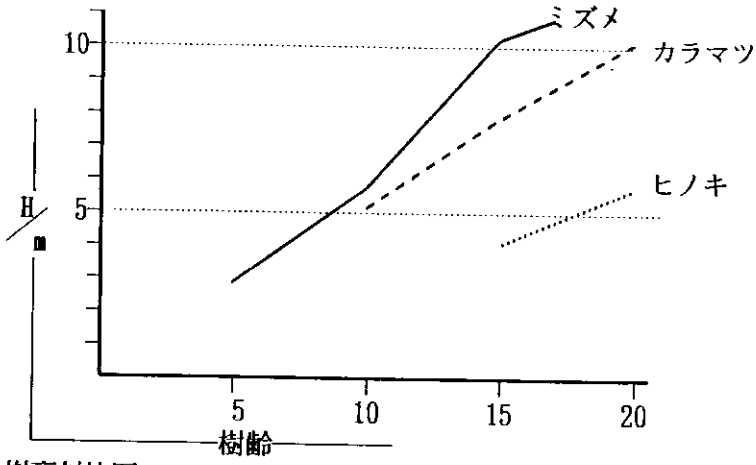
収穫予想表との対比は，立地条件などそぐわない点はありますが，その点を考慮しても，広葉樹の生長の優位性はあると考えられる。

ちなみに毎木調査の結果，標準木の平均直径10. 1 ㎝、平均樹高10. 6 ｍであった。

表－１材積対照表

樹　　種	材　積（㎥）	適　　用
ミズメ	１４２	ha当り　１７年生
ヒノキ	６０	〃　　２０年生収穫予想表
カラマツ	７２	〃　　〃

樹高について見ると



図－２樹高対比図

材積同様にヒノキ，カラマツノの収穫予想表より上位に位置しており，15年生で対比してもヒノキの２倍以上の生長をしていることがうかがえる。

将来どのように推移するかは，今後の問題ではあるが，伐期時での材積や価格がどのようになるか興味深いものがある。

この様に，この「ミズメ」の林を生育し観察していくことは，広葉樹施業の上で大きな意味を持つものと考える。

おわりに

最近，林業の後継者不足が叫ばれている時，このような林を国有林で造成していくことは，村民の「ミズメ」に対する関心を高めるとともに，林業への関心ももってもらい，ひいては国有林の有効活用，ＰＲに一役をなすものと考える。

松本営林署としても，この「ミズメ」の林を広葉樹施業指標林として管理していくことにししており，さらに，この林を中心とした国有林の活用方法として，梓川村は管理面積も多く，国有林野とのかかわり合いから，村の教育委員会などに働きかけ，森林教室や体験林業などを行い，村，中学校と一体となった活動を進めることによって，地元に貢献できる国有林にしていきたいと考えている。